

県一般ハンドボール選手権大会

ハンドボールの第56回県一般選手権大会最終日が16日、ANA ARENA浦添で行われ、男子1部リーグは興南B I Cが丸山松建設との全勝対決に29-27で勝利し、大会6連覇を達成した。女子1部はレキオクラブが3チームの絶当たり戦を制して栄冠をつかんだ。

男子2部はエレメンツ具志川、女子2部はM.L.N沖縄が頂点に立った。男子マスターの部はエレメンツマスターズ、同マスター50sの部は沖縄教員が優勝した。男女1部の上位3チームは、5月13、14日に宮崎県で開催される九州一般選手権大会に出場する。

〔男子〕	
右	左
丸松建設	C興南B I
28	33
1513	2013
1214	1112
26	23
那霸獨角獸	UURH NURC ME
那霸獨角獸	UURH NURC MF

興南B-C
（男子）
レギオ
（女子）
V



興南B I C 修正力發揮し逆転

集点

興南が連続で得点した。守備から攻撃のきつかけをつくるプレーが後半うなぎ機能した。チーム全体がリズムをつかむと左サイドの森田だけなく、右サイドでは横山也、中央は下地利輝が躍動した。

森田は「点が決まればみんなで盛り上がり、楽ししながら戦試合することができた」と充実した様子。今季終了まで琉球コラソンでプレーしていくため、九州大会では「アプロで培った経験を存分に見せつけたい」と活躍を誓った。

お互い一歩も引かない接戦だったが、前半の課題を修正した興南BICが、後半で徐々に点差を引き離し、優勝をつかんだ。

興南は守備陣の1人を前に上げ、その後方を5人で守る「1-1-5ディフェンス」で臨んだ。チームに負傷者などがないために採用した守備だが、普段は使わないシチュエーションのため、中央か左右にショットなどを決められれば失点が重ねた。1点のリードを許して折り返し、後半はその反省を主



男子1部優勝の興南B.I.C



レキオ、昨年の雪辱果たす

○：レギオクラブが昨年大会の震災を出し、富野湾ガスの3連鎖を阻止した。6得点で勝利に貢献した砂川委員は「勝てホント」と喜んでいた。最高震度ガスは昨年大会の決勝敗れた強敵。前半は攻撃の組み立てがうまくいきず、パスミスを説かれるなど相手有利の展開で試合が進んだ。5点台ハイアンドで前半を終えるも、ハーフタイムで「攻撃は最後はショットで終わる」ことを確認した。庄の強い守備からボールを奪って、立て続けにゴールを決めて逆転し、そのまま張り切った。砂川は「うがらず、どんどん前に出ていったのが逆転につながった」と手応えをかみ、九州大会への弾みとした。(砂川博範)